

辺野古土砂北九州

発行…2025年1月号・No.58



12月の小倉駅前宣伝の日程を当会が変更したため、「キリスト者・九条の会」北九州のみなさんの街頭宣伝と重なってしまいました。そしてびっくり。九条の会のお1人が、奄美の土砂の署名用紙の説明部分をこんなに大きく拡大して、署名を取ってくださったのです。感激して思わず写真に撮らせてもらいました。ありがとうございます。

《目次》

- 【土砂全協の10年】生態系を破壊してはいけない(阿部悦子)…………… 2ページ
- 【大分】戦争の足音伝える大分での集会(宗吉信・松本秀樹)…………… 5ページ
- 【連続エッセイ】琉歌と狂歌(浦島悦子)…………… 8ページ
- 【辺野古】運動支える民宿「クッション」(宗吉信)…………… 11ページ

写真…阿部悦子・宗吉信・松本秀樹・八記久美子・他



発行 「辺野古土砂ストップ北九州」

土砂全協の運動は、奄美の市集落(いちしゅうらく)から始まった

土砂全協が発足して 10 年

戦争のために 豊かな生態系を破壊してはいけない

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表 阿部悦子

■「土砂全協」として、初めて訪れた土砂搬出予定地で潜水調査

2015年5月31日、奄美大島で「土砂全協」が発足した。その前々日、私たちは「自然と文化を守る奄美会議」の方々のお世話で、住用町市集落(いちしゅうらく)に面する海の潜水調査に立ち会った。翌日の取材記事には「サンゴの死滅被害確認・採石場の土砂が原因か…」 「浜サンゴの大半が死滅」の見出しが載った。20~30cmも土砂が積もった海底に生き物は見えない。船の上の私たちも白く混濁した海底を確認。潜水調査は北海道大学名誉教授の向井宏さんと日本自然保護協会の安部真理子さんが行った。

一行が船から上がったあと、市集落の公民館に「報告」を聞くため集落の人々が駆けつけた。向井さんが、「この海は『死の海です』」と言われると、一人の男性が男泣きに声を挙げたことが忘れられない。この方は、30年以上故郷を離れて生活し、終の棲家にと最近帰って来たばかりの方だった。

市集落からはえぐり取られた採石場の無残な山肌が見える。大雨が降ると集落から町に続く巾5mの一本道を汚濁流が横切り、さらに崖を伝って海に流れ込む。土砂崩れが



起きて、一本道が数十メートルの高さで土砂に塞がれて通行禁止になることも度々。「かつてこの海では沢山の種類のカニやエビや魚介類が採れ、子どもたちが集まって遊んだ賑やかな浜だったのに…」と話してくれる人もいた。

昨年10月に訪れたときに聞いたのは、集落の人口は30年で半減して約100人、市小中学校の生徒は、今は中学2年生と3年生の2人のみになった…「この子らが卒業したら、もうここはおしまいじゃ」との声。ここが辺野古への土砂搬出予定地のひとつだ。



上…潜水調査を終えて船に上がってきた向井・安部両氏。
下…「死の海」の報告を受け、言葉をなくす住民のみなさん。いずれも10年前の写真。

■住用町戸玉集落の40年の苦悩

昨年10月、市集落の隣、戸玉集落区長の浦口一弘さんのお宅に伺った。戸玉集落は採石場に接していて19戸39人が暮らす。この集落も「人口が減り続け、子どもはひとりもいない」と。浦口さんは70歳、「父親の代から約40年間、採石場からの粉塵、振動、騒音の被害に悩まされ続けてきた」「畳はザラザラになる、窓には粉塵が積る。難聴になったのもそのせいかも…」と。

2004年には、砕石中の裏の山に大規模な亀裂が何本も入り、集落の全員(当時30世帯70人)に避難勧告が出され、公民館などで95日間の避難生活を送ったという。

浦口区長は最近の報道で「辺野古埋立て土砂の搬出地になっていることを知った」「そうなると思えば埋立ての間中、あと15年も20年もこれまでと同じ苦悩が続く…」「これを最後の闘いにしたい」「辺野古の海でカヌーが埋立て阻止の活動していることをヒントに、カヌーを5艇準備した」と。



戸玉集落の浦口区長

■二つの集落、日本で2番目のマングローブの下流に

実は、市集落と戸玉集落は住用湾の出口に位置するが、湾の奥には西表島に次ぐ日本で2番目のマングローブの原生林があり、沢山の観光客がカヌーを楽しむポイントにもなっている。その数キロ下流で起こっている採石による自然破壊、人々への甚大な被害は、辺野古への土砂搬出が始まるとさらに拍車がかかることになる。奄美大島の土砂搬出可能量は1,190万 m^3 、全量となると埋立て土砂の3分の2の量になる。大型トラック250万台分だ。何としても止めなければと思う。

■土砂搬入を阻止してきた力は

2015年に発足した「土砂全協」は、当時辺野古新基地建設のための土砂の3分の2を、西日本7県から搬出すると発表した防衛省の方針に反対して、「世界に誇る珊瑚と生物多様性の海、辺野古・大浦湾を守りたい。土砂採取から故郷の環境を守りたい」との思いで、奄美大島に7団体が集まってスタートした。その後沖縄県内の搬出地本部町、搬入地の名護市の島ぐるみ会議も加わり、さらにケーソン(埋立て作業のための巨大コンクリート枠)を作る三重県の団体なども加わって、現在12県17団体。昨年5月には第10回総会を沖縄県うるま市で行った。

これまで会の活動は、全国から集めた62万筆の反対署名を総理大臣あてに提出。防



2021年4月の署名提出。全国のみなさんの力があってこそ、到達できた数字だった。

衛省、環境省交渉などを繰り返し行い、「外来生物法」に規定された、有害な動植物の土砂への混入問題などを追及して来た。一方、「特定外来生物」問題で沖縄県が2015年に施行した「土砂条例」も、県外土砂の搬入を阻止する役割を果たしてきた。

■沖縄県南部の土砂搬出に、200を超える自治体から反対決議

そしてついに国は設計変更申請時(2021年)にその図書で、「埋立て土砂は沖縄県内で調達可能」とした。特に南部地区の土砂は埋立て必要量(1690万 m^3)の2倍近い調達が可能だと。しかし、南部地区には今も戦没者の遺骨が多く残り、県民からの強い抗議と全国の200を超える自治体からの反対決議を受け、ついに昨年5月の沖縄慰霊の日、岸田首相の「地元の思い受け止めたい」との発言を引き出した。

■難しい状況…鹿児島県や奄美各地の首長の反応

報道も昨年4月には、「辺野古に奄美土砂—防衛省・遺骨批判回避狙いか」(沖縄タイムス)、8月には「辺野古土砂、奄美で(特定外来生物の)調査へ—来月にも開始、搬入は25年か」(琉球新報)等、奄美土砂問題を報じた。

そこで土砂全協は、9月に北上田顧問と共同代表の大谷・阿部の3人で奄美大島を訪れ、防衛局が調査に入った4市町村の採取地、積み出し港を視察。大和村長、瀬戸内町長、龍郷町長、奄美市副市長らと面会して、「辺野古への土砂搬送は沖縄県民の抗議の声を無視し、戦争のための軍事基地建設に協力するものであり、自治体の長として反対の意思を表明すること」「土砂条例に基づく沖縄県の立ち入り調査に協力、連携すること」などを申し入れた。

首長らは口々に「地元には丁寧に説明してほしい」とは言いつつ、瀬戸内町長が「辺野古移設には賛成している」とコメントしたのを初め、他の首長らも「今の時点ではコメントできない」「法令に違反しない限り問題はない」というもので、自治体に期待することは難しい状況だと思うしかなかった。また、鹿児島県も「県として反対することではない」と回答した。



奄美市副市長に要請書

■政府の愚かな行動を、全国に伝えたい

奄美大島の土砂採取現地の40年にも渡る苦悩や、環境破壊の深刻さを実感するにつけ、全国にこの問題を知ってもらいたいと強く思う。辺野古・大浦湾の埋立てを阻止し、世界に誇る2つの自然遺産のホットスポットを守りたい。生物多様性の危機と気候変動の危機の時代に、豊かな生態系を破壊し、戦争のために使う土砂を搬出・搬入させることの愚を、多くの人に知っていただきたい。みなさん、そのために、つながり、力を合わせましょう。(あべえつこ)



《海洋生物》

ガラパゴス…2,300種
世界遺産の知床…4,200種
大浦湾…5,300種



昨年6月、死傷事故が起きた安和栈橋前だが、12月から土砂搬入が始まっている。



昨年11月、沖縄県うるま市の宮城島から、辺野古への土砂が搬出され始めた。

《署名にご協力ください・3月末集約予定》

土砂全協のHPから、ダウンロードすることができます

鹿児島県

奄美大島から辺野古埋立のための石材・土砂を調達しないことを求める署名

防衛大臣 中谷 元様
沖縄防衛局長 伊藤 晋哉様

防衛局は、米軍に提供する辺野古新基地を進めるため、世界自然遺産に指定された奄美大島からの埋立用材調達に向けた具体的な作業に入りました。奄美大島には多くの採石場があり、住民らは採石場からの粉じん、振動、赤土流出による海の汚濁等に悩まされています。これ以上の奄美大島の生活環境・自然環境破壊は許されません。なお、これまで防衛局は戦況等を含む沖縄島南部地区からの埋立用材調達を計画していたと思われませんが、奄美大島とともに沖縄島南部からの採取が許されないことと言っても過言ではありません。

また、奄美大島から調達されるのが石材とされ、土砂とされ、特定外来生物が付着して沖縄県に侵入し、貴重な生態系をかく乱する恐れがあります。防衛局はすでに、沖縄県の「埋立用材に係る外来生物の侵入防止に関する条例」に対応するため奄美大島での特定外来生物調査を実施しましたが、既存資料でバイコガクモやオオキンケイギク等が確認されています。そもそも土砂は洗浄できませんし、大量の石材に対し埋立対策を取ることなど不可能です。よって次のとおり要求します。

1. 奄美大島からの辺野古埋立用材調達を断念すること
2. 辺野古・大浦湾の埋立て工事を直ちに中止すること以上

取組団体：

第一次集約 2025年1月31日 ※以降も継続

氏名	住所
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県
	都道 府県

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表：大谷正徳（山口） 阿部真子（愛媛） 連絡先：TEL.090-3783-8332（携帯）
〒903-0816 福岡県北九州市小倉北区金田1丁目3-32-308 8記方式「辺野古土砂ストップ北九州」宛

※参加団体：奄美の自然と平和を守る奄美連合会（奄美市）、自然と文化を守る奄美会（鹿児島県）、海の生き物を守る会（神奈川県）、鹿児島に家畜以外ない県民の会（鹿児島県）、環境の海を愛する会（鹿児島県）、五島島自衛と文化の会（鹿児島県）、島もかまふ島（鹿児島県）、小笠原連帯（東京都）等（※参加団体は、広域と連携するネットワーキングによる）、辺野古埋立と土砂搬出反対奄美連帯連絡協議会（奄美市）、辺野古土砂ストップ北九州連絡協議会、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会（東京都）等、各県民有志の会（鹿児島県）、奄美島民会、奄美島民会（鹿児島県）等（※参加団体は、広域と連携するネットワーキングによる）

※署名簿は取組団体もしくは上記連絡先まで郵送して下さいますようお願いいたします。 ※この署名簿は厳重に管理し、目的外に使用されることはありません。



11月30日(土)・12月1日(日)の2日間、「ミサイルも弾薬庫もいらない！ 平和をめざすつどい in 大分 2024 実行委員会」主催の多彩な取り組みが、大分市内で開催されました。

主な企画は、①西日本各地で戦争をおこさせない運動している人たちの「沖縄・西日本ネットワーク(仮称)交流集会」、②「敷戸弾薬庫周辺フィールドワーク」、③大分市民のみなさんと西日本各地からの参加者を対象にした「ミサイルも弾薬庫もいらない！ 平和をめざすつどい in 大分 2024」です。取り組みの内容を報告します。

戦争の足音
伝える

フィールドワーク 大分での集会・FWに参加して

「戦争止めよう！ 沖縄・西日本ネットワーク(準備会)」交流集会 in 大分 & 「ミサイルも弾薬庫もいらない 平和をめざすつどい in 大分2024」

世話人 宗吉 信

■19歳のラップに「涙が出た」と高齢者

「どいつもこいつも歴史から学ばず／ドイツも日本も口先だけで終わる／過去を覗かずに惨劇を繰り返し／歴史がお前らの過去を覗くとき恥さらし／

どいつもこいつも歴史から学ばず／19のガキにこんなクソな事を歌わす／歴史は過去のデータの蓄積／それを見ずに見るこの先／また歩む血の道」

ラップ特有の韻を踏むリズムを感じ取っていただけでしょうか？ 昨年12月1日、表記集会二日目の市民向けイベントのメインライブ、DANNY JINのラップ「history」の一部です。パレスチナ人の父と日本人の母を持つミック斯拉ッパー。19歳という若さながら、パレスチナ問題をはじめ、反戦平和、人権、消費者問題等を鋭い歌詞のラップで投げつけてきます。日頃ラップになじみのない高齢者からも「感動した！」「涙が出た」という感想が聞かれました。



感動を呼んだ
19歳

■こんな集会もあるのかと…

「平和をめざすつどい」と題された集会は、日頃から活動している人だけでなく、市民に広く呼び掛けたいという思いから、歌や踊りを交えて楽しみながら参加できる内容でした。朝鮮半島の伝統音楽サムルノリに始まり、三線とウクレレ伴奏でのデュオコーラス、



朝鮮半島の伝統音楽サムルノリの演奏の様子

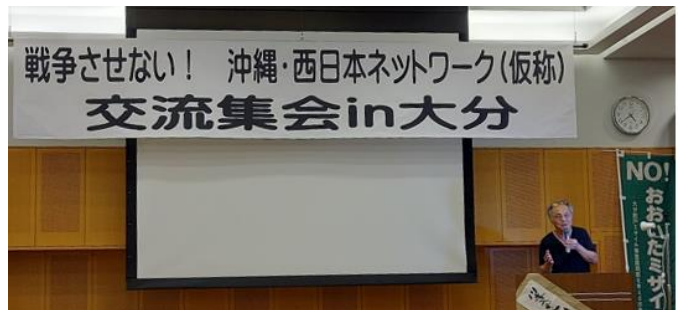
ギターの弾き語り、混声コーラス等に挟みながら、弾薬庫や基地の問題を抱える各地からのメッセージを織り交ぜていきます。

屋外の公園での開催やポップなチラシで、果たしてちゃんとメッセージは伝わるのだろうかと思っていたのは全くの杞憂。参加者は何と 500 人！普通の集会だったらあり得ないくらいの盛況。そしてちゃんと伝えるべきところは押さえてありました。大分駅近くの繁華街そばの公園ということもあって、通りがかりの人の参加もあったことでしょう。なかなか真似するのも難しいけど、感動の余韻が残る集会でした。

■敷戸(大分市)弾薬庫・湯布院駐屯地・築城基地からの発言も

前日の 11 月 30 日（土）に、ネットワーク交流集会があり、各地で日頃から戦争反対の活動をしている 100 名ほどが参加、北九州市からも数名参加していました。沖縄戦遺骨収集ボランティア・ガマフヤーで、「ノーモア沖縄戦 命どう宝の会」共同代表の具志堅隆松さんによる基調報告の後、多くは発表者の名前、所属団体を省略しますが、政府による戦争準備の危機にさらされている各地、大分敷戸弾薬庫問題、自衛隊湯布院駐屯地「敵基地攻撃ミサイル」問題、米軍基地化が進む築城基地で反対運動をしてきた渡辺ひろ子さん、等の報告がありました。

その後ネットワーク発足に向けた論議の結果、2 月の鹿児島集会で正式に発足させようということになりました。呼びかけ人の一人である愛媛の高井弘之さんによるまとめの中で、「アメリカも日本の協力がなければ中国に勝てないと予測している。だから、日本が協力をやめれば戦争にならないで済むのだ。」という言葉が印象に残りました。



1 日目の集会のまとめをする、愛媛の高井弘之さん

■保育園の道の向こうに長射程ミサイルが貯蔵予定

翌日午前中には、やはりネットワーク主催で、大分市の敷戸弾薬庫フィールドワークがありました。参加希望者が多く、定員を超えて参加できない人も出るほどでした。住宅や保育園、小学校のすぐ側にある陸上自衛隊大分分屯地には、元々弾薬庫があり、日出生台等で使う演習用の弾薬が貯蔵されていました。そこに新たに 9 棟の大型弾薬庫が建設されようとしていることが昨年分かりました。その弾薬庫には実戦用の長射程ミサイルが貯蔵される予定といます。戦争になれば真っ先に攻撃を受けるでしょう。演習用と実戦用とでは火薬の量が全く違いますから、攻撃を受けた時や事故での爆発時の危

険度は比較にならないほどです。分屯地のフェンス沿いの狭い道路を隔てた所から大きな住宅団地が広がっています。保育園も同様、道路一つ隔てた所にあります。小学校や病院もすぐ側です。こんな所に危険な弾薬庫を拡張しようとするのが信じられません。

でも、案内をしてくれた地元自治会の元役員をされていた方によると、地元の反対は広がってはいないそうです。元々分屯地があった所に住宅地が広がったため、また交流などで分屯地が地域に根付いてしまっているからということです。「怖い」という気持ちは聞かれるものの、大きな声は出しにくい状況のようです。

既に2023年10月にあった日米共同訓練では、演習用ミサイルを積んだコンテナが、敷戸弾薬庫から大分港に運ばれ、船で沖縄へ送られたそうです。ミサイル基地を新たに建設しようとしている自衛隊湯布院駐屯地とも一体で運用されるでしょう。有事には弾薬庫や輸送拠点、まず攻撃されることは明らかです。



大分の敷戸弾薬庫

■沖縄・西日本ネットワーク(仮称)、2月に正式発足予定

ネットワーク結成に向けて、8月に沖縄の那覇市、9月に広島県の呉市、そして今回の大分市と集会を重ねながら準備してきました。正式発足をめざす2月22日予定の鹿児島集会には、北九州からも多くの方が参加して、各地で取り組まれている戦争反対の活動が横に広くつながることを願います。(むねよしまこと)

行ってびっくり、知ってびっくり

世話人 松本秀樹

大分の集会には、世話人の大野さん・宗吉さん・私の3人で参加しました。いま、大分県の陸上自衛隊大分分屯地(敷戸弾薬庫)に、大型弾薬庫が9棟建設されようとしています。付近には、大分大学・小中学校・保育園・病院・介護施設・商業施設など、周辺3Km付近に4万人が生活する住宅密集地です。また、湯布院の陸上自衛隊駐屯地に、2025年3月、第8ミサイル連隊が新編され、敵基地攻撃能力の長射程ミサイルが導入される予定とか。湯布院駐屯地が九州・沖縄のミサイル部隊を東ね司令塔となることも知りました。

琉歌と狂歌

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



2025年元旦。辺野古の浜で恒例の初興し（はちうくし）が行われた（主催：ヘリ基地反対協）。コロナ禍により一時中断したが昨年から再開され、今年は県内各地から（県外からも）250人が集まった。

昨年末、御用納めも終わった28日、前年の「代執行」とちょうど同じ日に、国は「軟弱地盤改良工事に着手した」と大々的に発表。その怒りも冷めやらない中ではあったが、幕開けの「かぎやで風」の歌三線で新年を寿ぎ、東の海（大浦湾）を染めて昇る初日に向かって、皆で今年の決意を新たに。海上行動チームは明け染める海にカヌーを漕ぎ出し、オールを高々と掲げて、浜の人々とエールを交わした。

私は主催者挨拶の中で、自作の琉歌を「ていんさぐの花」の節に載せて歌った。

* 辺野古清ら浜に 御万人の揃て
上がい太陽拝で 平和願ら
(ひぬくちゅらはまに うまんちゅ
ぬするてい あがいていどうがでい
へいわにがら)

私が自己流で琉歌を作り始めてから20年余りになる。初めは名護市民会館の公民館活動の一つである「うちなーぐち講座」の中で習い、自分の思いや歌いたいのを8886（サンパチロク）の音に当て

はめるだけで精いっぱいだった。講座の先生に指導を仰ぐが、先生が直してくれたものは私の表現したい思いと微妙に違うような気がする。

そんなことが重なり、私は誰の指導も受けず、琉歌のグループにも参加せず、琉球語の語彙も圧倒的に少ない中で、暗中模索の試行錯誤で自己流を貫いてきたが、地元紙・沖縄タイムスの「琉歌・狂歌・川柳」欄（月1回）、琉球新報の琉歌欄（週1回）には欠かさず投稿を続けている。沖縄タイムスの方は毎回投稿者の中から各分野1~2編の「秀作」が選ばれるので、楽しみでもある。

これまで私も何度か選ばれたが、琉歌の選者が替わってから、琉歌はほとんど選ばれなくなった。代わりにというか、最近「狂歌（風刺的な時事琉歌）」の選者と馬が合う(?)ようで、昨年11月と12月、2か月続けて秀作に選ばれた。

* あまやあまぬ正義 くまやくまぬ正義
はっちゃかてい戦 果てしねらん
(あっちはあっちの正義、こっちはこっちの正義、ぶつかり合って戦争は止まらない)

* 地震や地ぬ叫び 大雨や涙（みなだ）
チャーすが（どうする？）人ぬ世
チャーすが地球

(うらしまえつこ)

朝食付き
1泊
2000円

運動を支える辺野古の民宿

あなたも一度「クッション」へ

世話人 宗吉 信

■500円で夕食も追加

これまで数回行った埋め立て反対の行動は、安和棧橋や塩川港で牛歩してダンプの進行を遅らせ、埋め立てのための土砂の積み出しを遅らせるというものだった。そのためバスでも安和・塩川に行き易い名護市街地に泊まってきたが、今回は福岡市の友人が一緒だったのでレンタカーを使い、初めて辺野古集落の入り口にあるクッションという民宿に泊まることができた。

ここは一泊2,000円で朝食付き(頼めば500円追加で夕食も提供してくれる)の格安ドミトリーで、同時に「やんばる広場」という沖縄平和運動の情報共有サイトでもある。沖縄内外から辺野古基地建設反対運動に関わる人達が集まるので、交流も楽しみだった。



辺野古のゲート前から近い所にある
民宿「クッション」

■多彩な人たちが集まる場所…クッション

期待通り、滞在中、韓国、中国、台湾、タイからの若者が泊まって(なぜかみんな女性)、辺野古ゲート前の座り込みに参加し、夕食をとりながら交流できた。残念ながら我々も含め、国内からの宿泊者は中年や高齢者ばかりだったが。特に、中国と台湾の若者が同じグループで行動していたのには感動した。人と人とはしっかりつながれるのだ！だが地元沖縄を含め、日本の若者はどこにいるのだろうか？

韓国人の女性は、もう辺野古に来て半年になるという。「うみかじ」8号の「テントの下で」という寄稿コーナーに登場している彼女だ。既に日本語が話せた。ゲート前では若者らしい踊りも披露していた。タイ人や中国人とは英語で話していた。

もう一つ感動したのは、東京から来た82歳の男性宿泊客と知り合えたことだ。何ヶ月かに一度、10日間ほどの日程で沖縄に来て、クッションにはいつも7泊するそうだ。主にゲート前の座り込みに参加しておられるが、土曜日に座り込みも安和での阻止行動もなかったのが伊江島に誘った。タッチュー(城山)の191段の急な階段を登って山頂まで来られたことに驚いた。僕も80歳過ぎまで抗議行動に参加できるようになりたいと思った。

宿泊者以外にもクッションには、様々な人たちが立ち寄る。11月2日にキリスト者・九条の会北九州の総会で講演された抗議船船長の一人大畑豊さんは、まるで民宿のスタッフのように、自主的に手伝いをされていた。会報に連続エッセイを執筆していただいている浦島悦子さんも、新しく刊行された自著「ジュゴンの帰る海」の英文対訳版を持って来られた。ゲート前で座り込みをする常連の人たち、また今回安和棧橋の外からのダンプ搬入が中止になることが多かったので、以前安和や塩川で出会った人達もゲート前に座り込みに来て立ち寄っていた。

■ほんとに便利です

そして、何とんでもこの民宿を運営しておられる稲葉さんとの会話が良かった。沖縄が抱える様々な課題に関わられているので、辺野古の問題以外にも多々教わった。

2段ベッドが数台並ぶ大部屋で、もちろん男女の部屋は分かれているが、相部屋が苦手な人には向かないかもしれない。でも、もちろんシャワーはあるし、洗濯機もある。辺野古ゲート前のテントや漁港、浜のテントも歩いて行ける。安和・塩川方面に行くには不便だろうと、これまで興味はあっても利用しなかったが、今回車も格安で貸してもらえることが分かり、問題は解決した。何とんでも様々な人との交流が魅力なのでオススメである。(むねよしまこと)

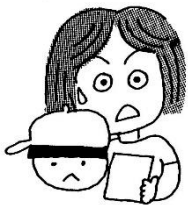


右端の黒いTシャツの男性が82歳(阿波根昌鴻さんの記念館「命どう宝の家」にて)

《特定利用空港・港湾をさらに追加・道路も指定すると》

現在「特定利用空港・港湾」に、北九州空港や博多港をはじめ、全国28の施設が指定されていますが、政府は今年度末をめどに、「特定利用空港・港湾」を追加する予定です。

あわせて、新年度から、「特定利用空港・港湾」と自衛隊の駐屯地等とのアクセス向上のために、道路も「特定利用道路」に指定することを、12月20日の関係閣僚会議で決めました。詳しいことは、4月の会報でお知らせする予定です。



《辺野古土砂北九州・今後の予定》

- 1月08日(水)…《会報発送作業》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
 - 1月29日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
 - 2月08日(土)…《小倉駅前宣伝》14時30分～
定例日の1月25日(土)は、北九州市議選最終日。2月22日(土)は、鹿児島で集会があるため、変則的になっています。ご注意ください。
 - 2月22日(土)・23日(日)…《沖縄・西日本ネットワーク発足集会》鹿児島にて
 - 2月26日(水)…《世話人会》14時～ 生涯学習総合センター・情報学習室
- ※財政の支出を抑えるため、2月号の会報発行はお休みします。

「辺野古土砂ストップ北九州」への入会は

年会費(個人 1000 円・団体 3000 円)です。090-4482-0043 大野保徳までお電話いただければ、会報をお送りします。

【辺野古土砂北九州の口座は】 ゆうちょ銀行 記号番号 01700-7-166911

【他金融機関から振り込む場合は】 ゆうちょ銀行 当座 一七九店 0166911

加入者名…「辺野古土砂ストップ北九州」

【財政・入会・退会に関するお問い合わせは】

090-4482-0043 大野保徳(財政担当)まで。

※領収書は、現金で会費をいただいた方のみお送りし、振り込みの方にはお送りしていません。ご了承下さい。

《辺野古土砂ストップ北九州》

メールアドレス…kanpanerura888k@gmail.com

〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方

八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂 090-6299-2608

2025 年 1 月 8 日発行